

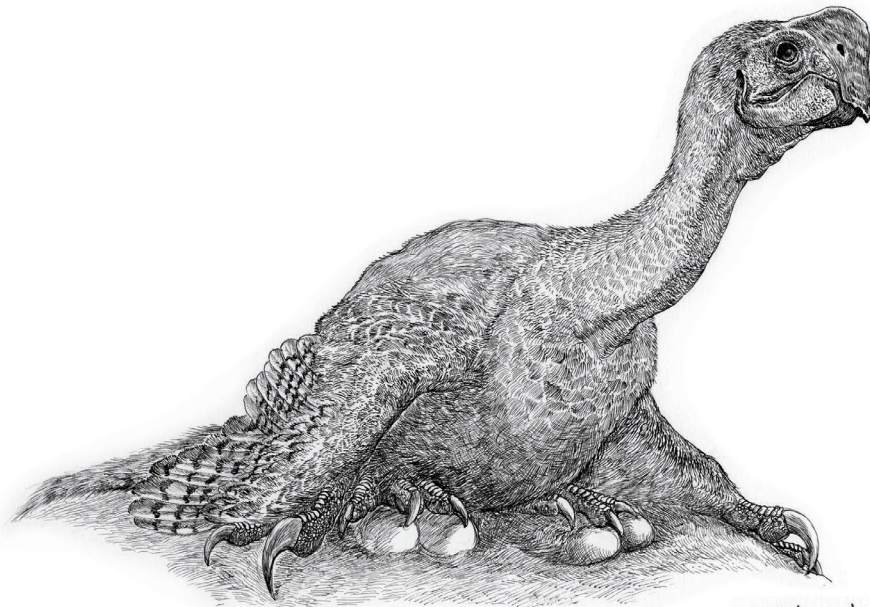


オビラプトルの仲間 ネメグトマイア

Nemegtomaia barsboldi

古生物について知りたい時、形は化石から推測します。一方、動きは現生生物の比較によって考えます。ここから推測できる古生物の動きを考える、からくり仕掛けのペーパークラフトです。大昔の暮らしを想像してください。

イラスト：小田隆



Okashi 2014.

オビラプトルの仲間は、中生代末の白亜紀のアジアや北米にいた恐竜です。1920年代アメリカ自然史博物館のオズボーンらは、卵の上に横たわる歯のない頭と鋭いツメを持つ前足の化石を発見し、卵を食べていたのだらうと卵の盗人「オビラプトル」と名づけました。ところがその後、巣の上で卵を抱いた姿の化石が見つかり、卵に残る胚はオビラプトル自身のものとわかりました。つまり卵を漁っていたのではなく温めていたのです。鳥の祖先と言われる始祖鳥より後の時代に現れており、相互関係は明らかではありませんが、くちばしやとさかなど鳥らしい特徴を持ち、鳥の仲間と考える研究者もいます。

ダチョウやエミューなどの大型で飛ばない鳥たちは、雄鳥が主に抱卵します。同じ巣に複数の雌が産卵することもあり、両親で抱卵する鳥より一つの巣あたりの卵の数が多いのが特徴です。オビラプトルの巣には30個近くの卵が見つかっており、雄が抱卵する鳥と似ています。また化石の骨のカルシウム量から巣を守っているのは雄らしいと思われま。ネメグトマイアは、ネメグト(モンゴルの地名)から発見されたお母さんという意味ですが、正しくは「お父さん」かもしれません。からくりをうごかすと親子のつながりが見えてきます。



オビラプトルの仲間シチパチの巣と胚の化石。

アメリカ自然史博物館所蔵
Wikimedia Commons

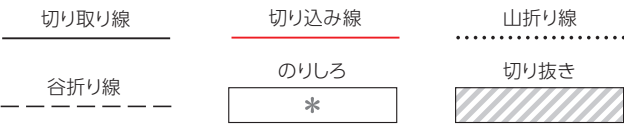


ダチョウの家族。オビラプトルも親子連れの群でくらしていたかもしれません。



ネメグトマイア 組み立て説明図

- 切り取り線にそって、カッターナイフやはさみでいねいに切り抜きます。
- 折り線は、鉄筆や芯を出していないシャープペンシルなど、適度に先のとがったものを定規にあて、まっすぐ線を引くようにして筋をつけてから折り曲げます。
- すべての折り線をいったん折り曲げてから、説明図にしたがってのりづけして組み立てます。細かい部分の組み立てには、ピンセットを使うと便利です。
- のり付けには木工用接着剤を使います。いったん小皿に出してから、つまようじを使って薄くむらなく塗りましょう。



1 首の前後を貼り合わせて組み立てます。

下から順にのりづけしましょう。

2 顔を組み立てて頭→あごの順に首に取り付けます。

頭の内側へ
あごの下へ

3 体のパーツ裏面の中央に、おもりとして10円玉を貼りつけます。その後、のりしろの青い数字の順番にのりづけして組み立てます。

4 太ももをぴったり重ねて両足を貼りつけます。左右に注意しましょう。

5 からくりを動かすレバーを組み立てます。

裏面で貼り合わせます。

折って台状にします。のりづけは必要ありません。

6 台座を組み立てます。卵は王冠状に丸めて組み立て、台座に貼ります。

柱を底から穴に奥まで差し込んでのりつけます。

7 2本の腕を柱に貼ります。

レバーを台座の底からのりしろの高さだけぴったりはめこんでのりつけします。

のりしろ ↓

15と19の先は、穴から出します。

8 体を柱に差し込んで、2本の腕を側面の穴から出し、15の先を背中中の穴に通してのりつけします。最後に足の裏を台座に貼ります。

9 首や羽根などをのりつけて完成。レバーを押すと、隠れていた卵が現れます。

羽根は内向きに丸めてからのりつけします。

デザイン：坂 啓典(図工室)